

持ち直しから回復へ

動向分析チーム

当会で作成している九州地域景気総合指数（CI）の一致指数（2009年7～9月期）は78.9と、前期を2.7ポイント上回り、8期ぶりのプラスとなった。月別にみても、CIは5月から5カ月連続のプラスを記録し、回復の動きはより鮮明になってきた（図1）。

前回の「持ち直し」との表現から、「回復」との表現に変更したのは、CIの上昇にも現れている生

産活動の回復が継続しているためである。7～9月期の鉱工業生産指数は、前期を10.7%上回る91.9となり、底であった1～3月期から27.6%上昇している。引き続き電子部品・デバイスや自動車の生産が増加していることに加え、ここに来て、増産の動きは鉄鋼や化学などにも広がってきている。7～9月期における九州の粗鋼生産量は前年同期比14.2%減

図1 九州地域景気総合指数（CI）

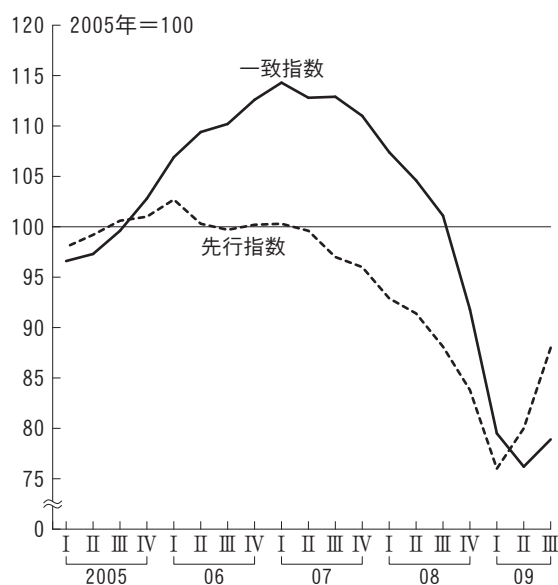
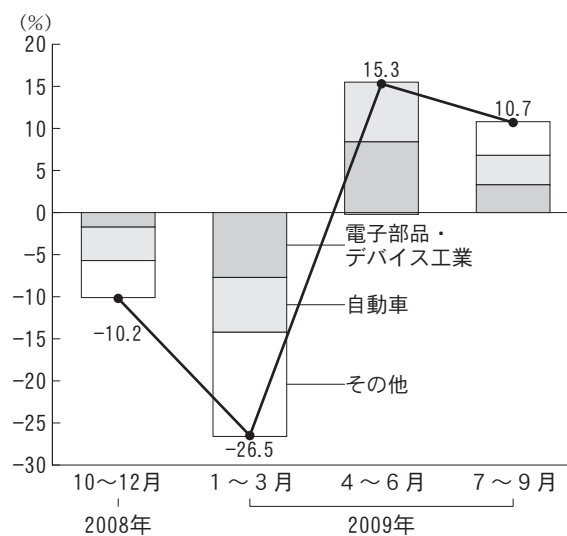


図2 主要2業種の生産指数上昇寄与率



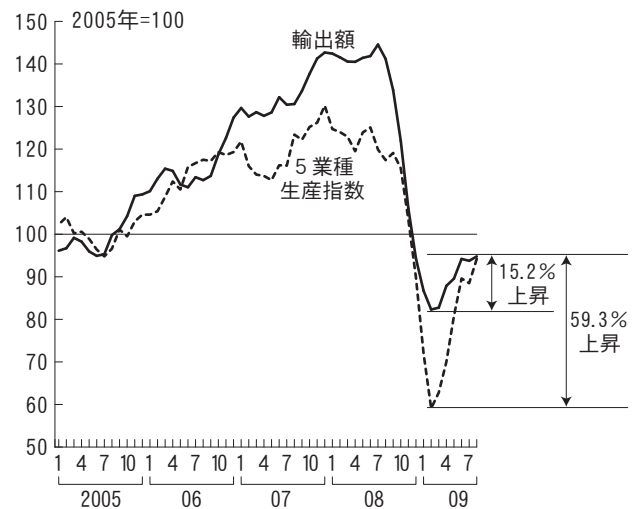
資料) 九州経済産業局資料より作成

となり、前期の46.2%という減少率を大幅に切り上げた。また直近9月の化学工業の生産指数は101.1と、前期から3.4%上昇し、2カ月連続のプラスとなった。その結果、前期における鉱工業生産指数の上昇は、もっぱら電子部品・デバイスと自動車の2業種によるものであったが、7～9月期には、上記2業種以外の寄与率が約4割にまで達し、上昇業種は多少広がりが見られつつある（図2）。

もう一方の牽引役であった消費も、政策効果やシルバーウィーク効果により、7～9月は引き続き堅調に推移した。8月の消費支出（2人以上全世帯）は前年比1.6%増、9月は同3.9%増となり、2カ月連続で前年を上回っている。ただ、昨年末から上昇が続いていた消費者態度指数はここにきて伸びが鈍化している。消費者態度指数を構成する各消費者意識指標をみると、これまで伸び・水準とも高かった「耐久消費財の買い時判断」が8、9月と2カ月連続で前月を下回った。エコポイント制度やエコカー減税・購入補助金等の対象となる品目の購入は増加しているが、マインド的にはその効果が一巡した段階にさしかかろうとしている（15頁図1）。また、景気ウォッチャー調査の家計関連現状判断DIは、8月こそ前月を上回ったが、9月そして10月と、2カ月連続で前月を下回っている（38頁参照）。このように消費は足下の指標は悪くないが、マインド面での効果が一巡する兆候が見えるとともに、今後、冬季賞与の減少など所得環境面が回復の足かせとなる懸念もあり、底堅さには欠けるとみる。

民間の投資活動も依然として低調である。民間企業設備投資の動向からみていくと、7～9月期における非居住用着工建築物床面積は、前年同期比

図3 輸出額と主要輸出産業の生産指数の比較（九州）



注) 1. 5業種生産指数は輸出比率が高い一般機械、電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイス、輸送用機械の生産指数をそれぞれのウェイトで加重平均した値
2. 輸出額はDecomp法による曜日・季節調整値
資料) 門司税関、九州経済産業局資料より作成

38.9%減となり、前期からさらに減少率が拡大している。また、日本銀行福岡支店「企業短期経済観測調査（九州・沖縄短観）」による九州の設備投資計画は前年度比14.6%減となった。さらに、6月調査から9月調査にかけて下方修正されている。6月調査時点での2009年度設備投資計画は前年度比12.1%減であったため、6月から9月にかけて2.5%ポイント下方修正されたことになる。とくに製造業は30.8%減から37.9%減になり、なかでも主要産業3業種（一般機械、電気機械、輸送用機械）で下方修正の幅が大きい。今のところ、これら業種での生産回復は設備投資の増額に波及するまでには至っておらず、設備投資の回復の見通しは立てにくい。

設備の過剰感が解消されない限り、雇用も本格回復には至らない。新規求人数やパートの求人数、所定外労働時間など、雇用の先行指標はようやく下げ止まる段階へ移ってはいるが、雇用の過剰感は依然として解消されていない。雇用人員の過不足はこれ

まで、生産設備の過不足とほぼ平行に推移してきた。この点から言えば、今後、雇用情勢には短期的な振幅はあるにしても、その本格回復は設備投資が拡大するタイミングを待たなければなるまい。

今のところ、回復の動きは外需を起点とする生産活動が中心であるが、景気回復の一部にとどまらず内需を中心とする各分野へ波及する条件は、前回の景気拡大局面と同様、輸出需要と生産活動の増勢にある。しかし、円高の急進が外需から内需への波及を阻害する要因となる可能性がある。前回は外需の拡大と同時に円安が進んだために、輸出額の拡大に対して数量要因と価格要因が同時にプラスに働き、企業の純利益は製造業を中心にバブル期を上回る水準にまで拡大した。その収益は一部、所得増を通じ消費を底上げした。しかし、今回は生産増の割に、輸出額の回復度は小さい(図3)。この数字が意味するところは、外需を追い風に量的には生産回復が進んでいるものの、円高により輸出採算はさほ

ど良いわけではないため、現状では企業業績に直結する外需とはなっていないということである。したがって、外需拡大の恩恵が内需にもたらされるには、為替レートの円安修正、そして一部の業種では製品市況の改善が条件となるであろう。

以上のように、九州の景気の現状は、外需の回復を背景に生産活動が前期より確実に明るさを増している。また、懸念材料であった雇用にも下げ止まりの気配もみられることなどから、景気自体は回復局面入りしたと言えよう。しかし、円高下における外需偏重の需要構造やグローバルな規模で進むデフレにより、企業業績へのプラス効果は限定的なものにならざるを得ない。したがって、外需が内需を持ち上げるには、長い時間を要するであろう。また、消費を喚起する種々の政策効果も峠を越した感もあり、これまでになく前途多難な回復局面入りと言えよう。

(片山 礼二郎)

九州経済主要指標

(単位：2005年=100、%、百万kWh、十億円、台、千㎡、百戸、倍)

	鉱工業指数		大口電力 使用量	輸 出 関 額	大型小売店 販売額	乗用車新車 登録台数	着工建築物 床面積	新設住宅 着工戸数	公共工事 請負額	有効求人 倍率		
	生産指数	在庫指数										
実 数	2007年度	110.7	107.5	39,554	8,253	1,654	270,450	17,223	1,045	1,717	0.75	
	2008年度	97.4	112.3	37,284	7,157	1,603	233,337	15,908	1,097	1,648	0.56	
	2008年 4～6月期		111.1	109.4	9,766	2,095	385	56,801	4,236	304	362	0.66
		7～9月期	109.1	113.4	10,485	2,265	401	67,108	4,657	310	464	0.61
		10～12月期	98.0	122.6	9,359	1,647	439	50,402	3,941	281	425	0.54
	2009年 1～3月期		72.0	113.5	7,674	1,150	378	59,026	3,074	201	397	0.46
		4～6月期	83.0	107.7	8,144	1,366	369	49,072	3,054	200	343	0.40
		7～9月期	P 91.9	P 109.8	9,412	P 1,496	P 380	72,603	2,933	186	571	0.39
	前 年 同 期 比 (%) 、 ポ イ ン ト	2007年度	1.7	7.3	4.1	13.7	△ 1.2	△ 1.7	△ 18.3	△ 24.0	△ 5.9	△ 0.03
		2008年度	△ 12.0	4.5	△ 5.7	△ 13.3	△ 3.1	△ 13.7	△ 7.6	5.0	△ 4.0	△ 0.19
2008年 4～6月期			△ 0.2	0.6	1.9	8.3	△ 2.4	0.9	△ 28.3	△ 10.1	△ 2.8	△ 0.02
		7～9月期	△ 1.8	3.7	0.5	11.3	△ 1.4	△ 0.9	38.3	49.7	△ 2.2	△ 0.05
		10～12月期	△ 10.2	8.1	△ 5.8	△ 24.9	△ 3.3	△ 19.9	△ 3.5	13.9	△ 7.9	△ 0.07
2009年 1～3月期			△ 26.5	△ 7.4	△ 20.1	△ 44.9	△ 5.5	△ 29.4	△ 20.4	△ 20.3	△ 2.9	△ 0.08
		4～6月期	15.3	△ 5.1	△ 16.6	△ 34.8	△ 4.2	△ 13.6	△ 27.9	△ 34.2	△ 5.3	△ 0.06
		7～9月期	P 10.7	P 1.9	△ 10.2	P △ 34.0	P △ 5.4	8.2	△ 37.0	△ 40.1	22.9	△ 0.01

注) 1. 鉱工業指数は季節調整済で前期比、有効求人倍率は前期差、その他は前年同期比 2. Pは速報値

3. 鉱工業指数、有効求人倍率は九州7県、輸出通関額は円ベースで九州・山口

資料) 鉱工業指数、大口電力使用量、大型小売店販売額：九州経済産業局調べ 輸出通関額：門司税関、長崎税関、沖縄地区税関調べ
乗用車新車登録台数：福岡県自動車販売店協会調べ 建築着工床面積、新設住宅着工戸数：国土交通省調べ
公共工事請負額：西日本建設業保証福岡支店調べ 有効求人倍率：厚生労働省調べ